ヨロズヤマンの人生色々!!

Etsuko

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ヨロズヤマンの人生色々！！

【Ｎコード】
Ｎ６５８３Ｆ

【作者名】
Ｅｔｓｕｋｏ

【あらすじ】
私は愛の戦士ヨロズヤマンだ！！仮の姿は有閑マダムだが、人生は色々だったのだ…！！山師の父、歪んだ母、児童虐待、ＤＶ、いじめ、父の戦争体験（少年兵、満州引き上げ、銃撃戦、殺人経験、紙一重で中国残留孤児、長崎原爆、戦災孤児）ｅｔｃ．…！！キミよ、愛あらば聞いてくれ！！（※これは実話小説です）

ヨロズヤマンより！！

やあ、よい大人のみんな！！
私は愛の戦士ヨロズヤマンだ！！

私の戦場は、愛と勇気と希望とカタルシスがあふれる創作活動である。
少なくともそれを目指して日夜闘っている！！

私の仮の姿はクラシックバレエなんか踊っちゃったり、洋裁や編物に熱中しちゃったりする有閑マダムだが、そんな私も人生色々だったのだ。

聞いてくれ、愛あふれるキミよ！！
私が愛の戦士になったのは、私の人生、ひいては戦災孤児だった父の人生が多いに影響している。
過去を振り返って、私が私となった人生の喜怒哀楽を語りたい。

なぜ父が小悪党になったのか、なぜ母が歪んだ人になったのか、その中でちょっとひょろひょろと歪みかけながらも、私が愛を目指す戦士になったのか。

キミよ、心あらば聞いてくれ！！

０８．１１．２８　ヨロズヤマンより！！

〈序〉ヨロズヤマンの登場だ！！

やあ、よい大人のみんな！！
私は愛の戦士ヨロズヤマンだ！！

私の戦場は、愛と勇気と希望とカタルシスあふれる創作活動だ。
それもファンフィクションとオリジナルの二刀流である。
絵も漫画も小説も書けるんだぞ。すごいだろう！！

とりあえず、すごいと言っておきたまえ、角が立たないから！！

ところで、君のハートは萌えているか？！
私は萌えすぎで困った状態にある！！

ケータイサイトが四つ、ＰＣサイトが七つ、ＣＧＩ・ブログが十五も私が管理している。
ペンネームは五つもあるんだ。

なんでこんな状態になったのか自分でも分からない！！

たぶん、私が愛あふれるヒーローだからだろう。萌えが広がって、八方美人になってしまうらしい。おかげで暇がない！！

私の仮の姿は無職の有閑マダムだが、マダムなのにお金がないんだ。

私のパートナーが懐不如意らしく、お小遣いを制限されてしまった。
ＮＯー！！

だから、私はオリジナルをなんとかお金に変えようと画策している。
私は創作しか能がない、ちょっとダメな大人だからだ…。

ハッ！！　こんな時こそポジティブ・シンキング！！
ピンチの時は裏返せばチャンスなのだ。やるぞ！！

愛あふれるキミよ、応援してくれ！！　…そんな義理はない？　そう言わず闇雲に応援したまえ。とりあえず、角は立たないぞ！！

そんなわけで、私は日夜愛の闘いで忙しい。
だが、私には語る使命がある気がするのだ。天啓だ。…誰だ気のせいだとか思ったやつは。愛が足りないぞ！！

次回から、私のちょっとすごいかもしれない過去を語り始めよう。

では、今日も私は愛のために闘う！！
さらばだっ、とうっ！！

〈一〉私は姫だった、が同時にビンボーだった！！

やあ、私は愛の戦士ヨロズヤマンだ！！

今日はちょっと私の仮の姿の中学生時代を振り返ってみよう。彼女は“エッちゃん”と呼ばれていた。

＊

「ねえねえ、エッちゃんってすごい大きなお家に住んでいるんだって？！」

とクラスメイトの女子達が言った。

「大きな犬もいるんでしょう？」と続けられた。

エッちゃんはからかわれたのかと思ったが、そうではないようで、その女子達に悪意は感じられなかった――なんと、エッちゃんは周囲からお嬢様だと思われていたのである！！

当時、エッちゃんはなぜそんなふうに思われていたのか不思議だった。大人の私なら分かる。

なぜか？　それはエッちゃんが堂々としていたからだ。

堂々と流行を無視して長髪をきりりと三つ編みの二つおさげに結い、休み時間は堂々と純文学や漫画を読み、プライドの塊のような顔をしていた。友達が少なくても平気だった。

おまけに、これも当時のエッちゃんは自覚がなかったが、彼女は美少女だったのである。
いや、うそじゃないぞ。大人になってからだが、エッちゃんは美人でないとできない仕事もしていたんだ。
先生も「Mモトは将来女優になるんだからな。今のうちにサインもらっとけ」と男子に言ってたほどである。

つい自慢してしまったな、ハハハハハ！！　私の仮の姿の数少なすぎる長所の一つなので、ちょっとだけいばらせてくれ！！
……いや、もちろん、もう過去の話なんだが……

ハッ！！　ポジティブ・シンキング・チェーンジ！！　私は加齢とも華麗に闘うのだ！！
バレエなんか踊っちゃうぞ、オラオラ！！

それはさておき、お嬢様と学校では思われていたエッちゃんが帰る家は、汲み取り式トイレつきのボロ長屋だった。

家に着くと、ボロドアに借金取りの罵声が書かれた張り紙がベタベタ貼ってある。それをまず全部はがして家に入るのである。
なに、エッちゃんにはなんてことはない、子供の頃から慣れているからただの紙切れにすぎない。
雑種の愛犬が喜んで吠える！！　電話も鳴る！！　昔だからジリリリ～ン！！！とうるさい黒電話だ。

「父は今いません」

エッちゃんはいつものように借金取りに答えた。その時彼女の父が家にいてもいなくてもだ。
それがエッちゃんの子供の時からの仕事だったのだ。
そしてトイレからほのかにバラの香り漂う狭い家の中で、エッちゃんは私服に着替え、愛犬と近くのマラソンコースを走りに行った。
上り下りあるコースをダッシュ＆スローで毎日二キロくらい走っていた。
そしてこの時間はエッちゃんの愛の妄想タイムだったのである。
愛犬がいて、走るコースがあって、愛あふれる妄想に浸っていたエッちゃんは、そう、幸福だったのだ。
漫画家になりたい夢もあった。夢があれば、子供は環境なんかに負けないのである。
そして彼女の父の愛があった。愛されていれば、ビンボーの星の下に生まれた子もお姫様になれるのだ。

犬と走り終わったら、エッちゃんはノート漫画を書いた。両親は共働きだから、彼女は自由で、妄想を絵に落とす作業を黙々とやっていた。学校には漫画友達がいて、ノート漫画を見せ合って楽しんだ。
漫画はろくに買えなかったが、当時は本屋の漫画本にビニールカバーがかかってなかったのである。立読みで数々の名作を読んだ。泣いた。笑った。もちろん心の中でだ。
少女漫画誌も一冊なら買えた。いまだに読み続けているＷＪ誌も読み古しをくれる友達がいた。隣の席の男子はなぜかみんなエッちゃ

んに優しかった。

ただ彼女は空腹が苦しかった。食事は貧しかったのである。
だが、それも子供の頃から慣れていた。

ある時エッちゃんが「ステーキを食べたことがない」と友達にこぼしたら、友達は自分のお母さんに頼んでお弁当にビーフステーキを入れて持ってきてくれ、
「エッちゃん、これがビーフステーキだよ」と言って食べさせてくれた。
エッちゃんは、この友達の心尽くしで食べた初めてのビーフステーキの味を大人になっても忘れられなかった。

夜は苦労ですっかり歪んでしまったエッちゃんの母が宗教を盲信して、子供を愛することを忘れ、ただただ泣きながらお経を上げていた。
エッちゃんは彼女の泣き声を右の耳から左の耳にスルーして、図書室で借りた本を読んだり、絵を描いたりして楽しんだ。

エッちゃんは母に悪いと思っていたが、母には愛されなかったのだから、彼女を愛することもできなかったのだ。
エッちゃんにとって母はただの騒音だった。

そして寝る前は電話の上に布団を積み上げた。夜中に借金取りから嫌がらせの電話がかかってくるからだ。
だがこれでＯＫ！！
エッちゃん達家族は夜通しかすかに聞こえるベルの音を聞きながら、安眠したのである。

そして借金取りは家にもよく来たが、中には玄関に座って怒鳴り散らすヤクザ者もいた。
エッちゃんの母は泣きながら、「お願いですから、帰って下さい～」と真面目に対応していた。

ＮＯ－！！　はっきり言おう、エッちゃんの母はバカだ。敵は弱みにつけ込むのが商売なのである。

その時、エッちゃんと彼女の父はヤクザの怒鳴り声と母の泣き声をスルーしながら読書を楽しんでいた。
薄情？　それは違う。エッちゃんが生まれる前からこの環境にあって、ちっとも慣れずに醜態を見せる母がバカなのだ。

エッちゃんの母は借金取りに弱みを見せ、つけ込まれて夫の借金を払い続けた。もう一度はっきり言おう。彼女は大バカだ！！

借金なんてものは、少々頭に血が回っていたら、なんとでもなるものなのだ。ましてや夫の借金だ。
なぜ市でやっている市民相談窓口に行かない？　専門家がただで法的悪知恵を色々教えてくれるじゃないか。馬鹿正直にヤクザの言い値を払っていた彼女が、文字通りバカだったのである。

彼女は苦労のあまり、エッちゃんや夫をいじめた。
味のついていない粗末な食事、ヒステリックな言葉責め、責任転嫁のクセ…。
エッちゃんも彼女の父もやせ細っていたのに、彼女の母一人だけなぜか太っていた。

エッちゃんは大人になっても母を愛せないでいる。幸福だった自分を不幸な子供にしようとした母を。

だがもうそれは過去のことだ。エッちゃんは母を許さなければいけないのだ。

（母を愛さなければ……でも、どうやったらいいのだろう……）

エッちゃんはいまだにどうすればいいか分からないでいる。

エッちゃんはなぜか、母に産んでもらった気がしないのだ…。

不思議だ。どうしてここまで絆が断ち切れているんだ？

彼女の母が愛あふれる余生を送るためにも解決しなければいけない難題である！！

母親には苦しめられたが、エッちゃんの学生時代はおおむね幸福だった。

苦難の人生を送った父が背中で教えてくれた。少々の問題はスルーしてしまえばなんでもないのだと。

さて、次回はエッちゃんの黄金時代だった幼少期のことでも話そうかと思う。

彼女の父が末期ガンで亡くなった時の哀れさと三千万円以上の借金の話はクライマックスでかまわないだろう。

その前にエッちゃんの父がどんな人であったかをつぶさに話したいものだ。彼の戦争体験なども含めて。彼がどのようにして小悪党に

なっていったのか……それは追い追い話すことにしよう。

では、私は今日も愛のために闘う！！

さらばだっ、とうっ！！

〈二〉父と母は問題多き人だった！！　私は失踪する幼児だった！！

やあ、よい大人のみんな！！
私は愛の戦士ヨロズヤマンだ！！
愛の戦士といってもハニーフラッシュは使えないんだ。
お色気の足りないヒーローですまない！！

でも、必殺技は持っているぞ！！
父直伝のゴールデン・スマイルだ！！
ハンサムな父はこれを武器に、山師や詐欺師や女性のヒモなどをして生きていた。
私はこれを武器に接客営業の仕事をしたりした。

今日は、私の仮の姿、エッちゃんの幼児期を振り返ってみたい。
どこから話すのが適当かな？

まず、エッちゃんの父と母がどんな人であったかを浮き彫りにしてみよう。

＊

エッちゃんの生まれる四年程前から、エッちゃんの父と母は同棲していた。

正確に言うと、母の下宿の四畳半に父が転がり込んでヒモをしていたのである。

彼は色んな仕事を渡り歩いた人だが、この当時は設計図を描く仕事をしていた。
そして給料は全部自分で使ってしまい、母には一銭もあげなかったそうである。

そればかりか、母に金をせびっていた。もらえないと実力行使に出た。

母が仕事から帰ってくると、天井裏に隠しておいたお金がなくなっていたり、洋服ダンスが空になっていたりしたそうである。

そうして得た金や給料を彼は競馬や競輪につぎ込んだ。

そこまでされても、エッちゃんの母は泣き寝入りをして、父を追い出せなかった。
何度も言って悪いが、バカだ。
他の女性達は父を一～二年で見限って追い出しているというのに。

エッちゃんの母はよく働くが、自分で自分を守れない人で、父にはいいカモだったのである。

エッちゃんは父が亡くなった時に戸籍謄本を取り寄せて、その戸籍の汚さにげんなりした。

彼はなんと五回も婚暦があったのだ。
それもほとんど一～二年で別れている。

エッちゃんには腹違いの姉が二人もいた。

おそらく一緒に暮らして籍を入れていない女性はもっといたに違いない。
彼は女性の家を渡り歩き、寝床にして生きていたのだろう。
彼はハンサムな上にゴールデン・スマイルという必殺技を持ち、会話は明るく、ファッションはお洒落で、社交ダンスも踊った。
彼の本質を知らない女性からはきっとモテモテだったろうな。

さて、その戸籍謄本を見てみると、エッちゃんの母の前に籍を入れていた女性と別れる前から、エッちゃんは母のお腹にいた。
書類上、エッちゃんは不倫の子ということになる。

実際は、エッちゃんの父は母がありながら別の女性とも暮らし、そちらの女性とは籍を入れたのである。
このことから、当時彼にとってエッちゃんの母はキープにすぎないことがうかがえる。

そのうちエッちゃんは母のお腹の中で人生を始め、彼女の父はもう一人の女性と離婚し、母と籍を入れた。
エッちゃんの存在が、なあなあで暮らしていただらしない一組のカップルを、父と母にしたのであった。

エッちゃんが産まれる時も一悶着あったそうだ。

エッちゃんの母は愚かにも、分娩前、入院費を入れたバッグを病室に置きっぱなしにした。

もちろん夫はその金を持ってドロンし、母は分娩後、新生児のエッちゃんを抱いて下宿に帰るしかなかった。

四年も一緒に暮らしながら、母は夫がどういう人間か分かっていなかった。

インディアンの言葉にこんなのがある。

「蛇は蛇だ」

蛇に情けをかけたところで噛まれるのである。蛇は蛇だからだ。

エッちゃんの母は、それが分かっていなかった。

エッちゃんの父は蛇だ。蛇としてしか生きられなかった人なのである。

エッちゃんの母は自分で自分を守れず、蛇を飼っていたくせに噛まれて痛いと泣き、宗教にすがった。宗教に守ってもらおうとした。父も性格に問題があったが、母も母だ。働いていた割には自立できていなかったのである。

エッちゃんの最古の記憶は、赤ん坊の頃母におぶわれて、母の肩越しに見た白い富士山である。

富士山がよく見えるところに母の宗教の本山があり、エッちゃんはキリスト教で言うところの洗礼のようなものを受けた。
エッちゃんにとってはいい迷惑だ。

おかげでＳ学会の名簿にはいまだにエッちゃんの名前が載っているのだ。
エッちゃんは母が亡くなったら、早々に脱会しようと思っている。

話を戻そう。

エッちゃんが産まれて五十日目、エッちゃんの母はまだ首の座っていないエッちゃんをおぶって、薬局に勤めだした。
薬局の奥の間にエッちゃんを寝かしておいて働いたそうである。

その生活は一年くらい続いた。
激貧だったらしい。

エッちゃんは斜頸――つまり首が傾いた状態で産まれたので、十ヶ月も病院通いだったそうだ。その治療代も馬鹿にならず、エッちゃんの母はお乳が出なかったのでミルク代もかかった。

その上エッちゃんの父は相変わらず妻にぶら下がって賭事に熱中していた。

こんなエピソードがある。
エッちゃんの母は食べるものがなくて、エッちゃんをおぶって野っ原に行きセリを摘んできた。
ところが、そのセリを茹でるための塩がなかったのである。
その時は塩を買うお金もなかったそうだ。

そしてエッちゃんの父は、妻の親戚中に大変な借金をしたそうである。
もちろん使い込んだ。
エッちゃんの母は泣く泣く自腹で返して回った。

そろそろ子供連れて逃げろ、と思うだろう？
それができないのがエッちゃんの母という人だ。

本人は無自覚だが、夫に依存心があったのである。自分で自分のことが決められなかったのだ。
その証拠に、他の女性はみんな父を追い出すことに成功している。

エッちゃんの父にとって、こんないいカモはいない。

その上、エッちゃんはそれはそれは可愛い子供だった。（いや、これは親戚のおじさんの証言なのだが・笑）
エッちゃんは幼児の時、父が帰ってくるとお帰りなさいのキスをしたそうである。エッちゃんの父は彼女を溺愛した。
彼女を可愛がり、いい父親になろうとした。

だが、しょせん蛇は蛇だ。彼は善人の一面も持っていたが、相変わらず妻にぶら下がり、人をだまし、蛇として一生をまっとうした。

まあ、その話は追い追いするとしよう。

エッちゃんが一才半くらいの頃から彼女の母は看護婦として病院に勤めだした。

その病院に住み込みの看護婦さんがいて、子供とおばあさんも一緒に暮らしていた。
そのおばあさんが自分の孫と一緒にエッちゃんの子守をしてくれたのである。

だから、エッちゃんが感情を持つ頃に影響を与えたのはそのおばあさんだ。
きっと言葉もおばあさんに教わった。

おばあさんの孫、つまり当時のエッちゃんの遊び相手だった子のことを、エッちゃんはおぼろげに憶えている。
同い年くらいの男の子だった。切れ切れの思い出の中では、とてもいい子だ。

三歳くらいまで、エッちゃんはそのおばあさんに育てられた。

エッちゃんの母はとにかく働くのに必死で、エッちゃんに寝場所と食べ物を与えるだけで精一杯だったらしい。

だが、休みの日はマメに色んなところに遊びに連れていってくれたそうだ。

その割に、エッちゃんは母に可愛がってもらった気がしないのだ。
エッちゃんの記憶に残る母は怖くて不愉快な人だ。
強い力でつかまれ、怖い顔でにらまれて、叱られてばかりいたような記憶が多い。

幼児の頃の母と一緒に写っている写真は、決まってエッちゃんは困ったようなしかめっ面をしている。

そのせいなのか、エッちゃんはよく失踪する幼児だった。決まって彼女の母と一緒にいる時だ。
ちょっと目を離した隙にすぐどこかへいってしまったそうだ。

推測だが、たぶんおばあさんと男の子のところに帰りたかったのだろう。
エッちゃんは幼児とは思えないほど遠くまで失踪したそうである。

一度なんかは電車を止めてしまった。

エッちゃんが二歳くらいの時の話だ。
エッちゃんの母は、エッちゃんを連れて役所に手続きに行った。

目を離した隙にエッちゃんは失踪し、役所のすぐ側にあった線路に入って座った。
駅から走り出したばっかりの電車が急ブレーキをかけてエッちゃんの鼻先で止まった。

あわやこれまで、という事件だが、エッちゃんは目の前で止まった電車に怯えることもなく笑っていたそうである。

フッ、さすがのちにヒーローになる子供だ。ギリギリで強運に恵まれている。

エッちゃんの母は言う。

「普通、小っちゃい子というのは母親から離れないものなのよ。なのにお前ときたら…」

これを聞いてエッちゃんは確信した。

幼児の頃、エッちゃんは母を母だと思っていなかったのだ。

絆はこの時点で断ち切れている。その後も回復していない。

エッちゃんはいまだに不思議なのだ。

父はまさしく父親で血をもらった気がするのに、母からは血をもらった気がしないのだ。

母が余生に入っている今をもってしても、意思の疎通が困難なぐらいだ。

エッちゃんと彼女の母親は互いに相手が何を考えているのか、いまだに分かり合えていない。

幼児期のエッちゃんの性格が観じられるエピソードがもう一つある。

エッちゃんの父と母がエッちゃんを連れて遊園地に行った時だ。
あまりにエッちゃんが好き勝手に遊び回るものだから、父と母は隠れてみたのだ。
泣き出して「とうちゃん～、かあちゃん～」と呼ばれることを期待したらしい。（笑）

ところがエッちゃんは父母がいなくなったのをまるで気にせず、やっぱり好き勝手に遊び回って、写真を撮っている人達の中にちゃっかり入って写真を撮ってもらったりした。

いつまで経ってもエッちゃんは好き勝手に遊び回り、結局期待通りにはならず、エッちゃんの父母の方が根負けして出ていったのだ。

思うに、エッちゃんはあまりに他人に預けられてばかりいたので、特定の保護者というものが概念になかったんじゃないかな？

困ったことは近くにいる人に頼めばいいくらいに思ってた子だったんだろう。
あと、地の性格として怖い物知らずだったようだ。

う～ん、ちょっと長くなったな。今日はこの辺にしておこう。

次回こそはエッちゃんの保育園時代を語りたい。
保育園はエッちゃんの楽園だった。
まさにその後愛の戦士になる基礎を築いた時代であり、語るのが楽

しみだ！！

では今日も私は愛のために闘いに行く！！
さらばだっ、とうっ！！

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6583f/

ヨロズヤマンの人生色々!!

2010年10月21日23時27分発行